

まほらいな市民大学の様子

令和5年4月11日（火）

JICA国際協力出前講座『異文化理解セミナー』

講師 JICA 長野デスク 国際協力推進員 木島 史暁 氏



はじめに講師木島史暁氏から、2018年10月から2020年3月まで東アフリカのウガンダに派遣され、現地で「稲作」の研究をされた話がありました。「素敵な人に囲まれ、楽しい毎日であった。マラリアに罹ってしまい“死ぬときに後悔したくない”と思った」といった体験話がありました。

次に、日本や伊那市にもたくさんの外国人の方が生活しています。ふれあう機会も増えてきています。文化の違いにとまどっている外国人のことを学生の皆さんに体験してもらいたいということで、多文化共生ワークショップ「バーンガ」というトランプを使ったゲームを行いました。各テーブル6人で、共通した基本ルールを確認しました。そして、各テーブルごと違った特設ルールをつくり「無言で」競います。今度は、一番勝った人が他のテーブルに移動しますが、今までのテーブルとルールが違っています。「無言でゲーム」を続けますので、移動してきた人はルールがわからずに困ってしまいます。このようなとき、どのようにしたらよいか考えながらゲームをしました。

移動してきた人は、どんなルールなのか知ろうとします。時にパニックになります。受け入れた側は、身振り手振りで何とかルールを伝えようとします。それでもむずかしい時があります。外国人とふれあうとき、言語が伝わらないことがあります、その時は英語など共通言語を見つけて話すことも一つの方法であるとアドバイスがありました。

学生からは、「異文化についてのとらえ方などたいへん参考になりました。」「ゲームがとても面白かったです。一つ文化が異なるだけでパニックです。異文化に入ったとき、受け入れる頭と気持ちのやわらかさが必要だと思いました。」「異文化を理解しようとする頭のやわらかさと、自分の方から歩み寄ることを考えることも大切だと思った。」「言語の必要性を痛感した。」といった感想がありました。